

疫学研究のお知らせ

当科では下記の研究を行っております。

研究課題名：食道癌化学放射線治療の晩期有害事象に関する検討

研究の目的：

食道がんに対する放射線治療は手術が行えない・希望されない方に対して古くからおこなわれてきました。放射線治療に抗がん剤を加える治療法（化学放射線療法）で成績の向上が得られるようになり、手術が行えない方だけではなく、病気の進み具合によっては手術と同等程度の成績が報告されるようになり手術の行うことができる方でも化学放射線療法を受ける方は増加しています。

その一方で食道がんに対して化学放射線治療を受けた後に、6か月～数年後に心臓や肺の合併症（晩期合併症）が起こる方がいることが分かってきました。しかし、その危険因子や発生頻度については分からない点が多いです。

京都大学放射線治療科では1990年代後半頃から化学放射線療法を行っており、データベースに治療後の情報が残っています。今回はこのデータを用いて治療後の晩期有害事象について検討し、晩期有害事象の発生頻度や危険因子について新たな知見を得ることを目的としています。

研究の方法：

1999年から2008年までに食道がんに対して京都大学医学部附属病院放射線治療科で化学放射線療法を行った患者さんの診療録（カルテ）を解析します。本研究は、京都大学大学院医学研究科・医学部および医学部附属病院医の倫理委員会の承認を得て実施されています。

研究成果発表：

学会や学会誌での報告を行います。個人名や個人情報公表されることはありません。

問い合わせ先：

本研究に関するお問い合わせや診療情報の利用を望まれない方は、下記までご連絡ください。

研究事務局

京都大学医学部附属病院 放射線治療科

坂中 克行

電話：075-751-3762、FAX：075-771-9749